

シニアのシニアによるシニアのための会報誌

2025

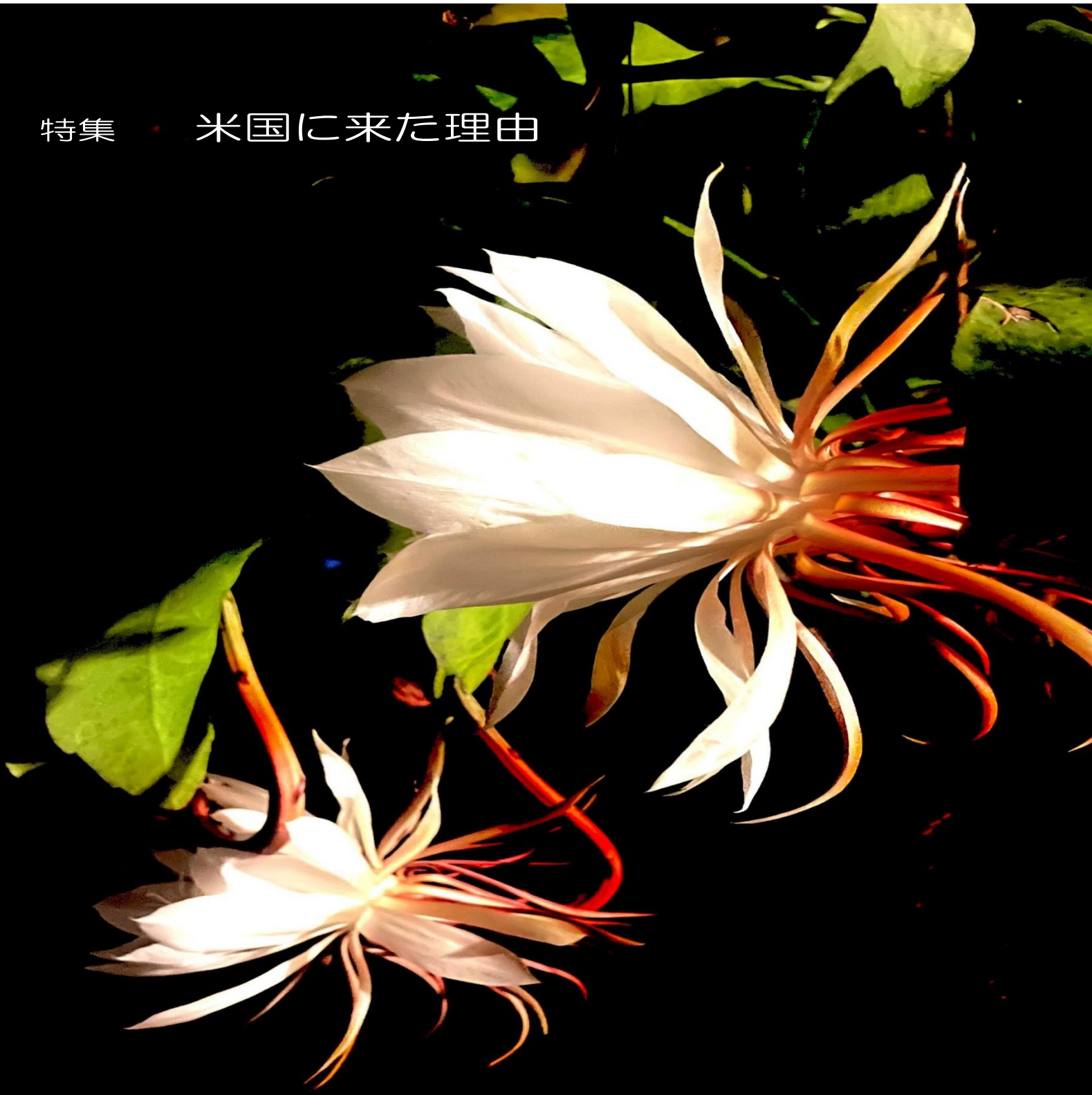
チャランポランの会

夢と笑いの

夏 22号

かわら版

特集 米国に来た理由



チャランポランの会は何をする会？

チャランポランの会は、シニアを応援する会です。
高齢者の貴重な経験と、そこから得た知識を共有し、
次世代に伝えていく媒体になることです。

- ※ 会報誌「かわら版」（年4回発行）を通して、シニアの方々に元気にしていきます。
- ※ 交流の場を提供し、楽しみや生きがいを持てるようにします。
- ※ シニア向けの講演会、イベントを開催していきます。（当分は米国）

入会ご希望の方

チャランポランの会には世界中のシニアの方であれば、
どなたでも会員になれます（未来のシニアの方も歓迎）

- ※ 年会費： 一切なし
- ※ 手続き： 下記のインフォメーションをご記入の上、
郵送または Email にてお申し込みください。
- ※ 氏名 * 住所 * 電話番号 * かわら版を何で
お知りになりましたか * 出身地 * E メールアドレス
(オプション) * 生年月日 (オプション) をお書きの上、
次の送付先にお送り下さい。

【郵送先】 CharanPoran USA
4733 Torrance Blvd., #768
Torrance, CA 90503

【Eメール】 katsm2390@gmail.com

「かわら版」創刊号から今日に至るまで多くの読者の皆さまから心温まるお言葉と共にドネーションを頂いております。ありがとうございます。心よりお礼申し上げます。この会は連邦政府から NPO (Non-Profit Organization) 非営利団体として認可(501.C.3)を受けております。

「かわら版」への投稿方法

- 川柳・俳句・短歌：お一人一句一首
 - お便りコーナー：200字以内が歓迎ですが、超えても結構です。
住所、氏名、年齢（オプション）、電話番号、Email Address を明記の上、郵送または E メールでお送りください。なお、都合により内容を割愛、一部変更させて頂く場合もございますのでご了承下さい。
- 投稿が多数の場合は「かわら版」編集部で選定の上、掲載または次号への持ち越しとさせていただきます。

「かわら版」へのご意見・ご感想をお気軽にお寄せください。
CharanPoran USA まで郵送、または E メールにてお送り下さい。



会の名称

『チャランポラン』

私達、発起人は二十代から六十代まで長い間、一応真面目に仕事し、子供を育て、一社会人・一家庭人としてそれなりの責任を果たして来ました。ふと気が付いて見ると、もう高齢者です。昔の元気はなく、体力も落ちました。これからの人生をいかに生きるかと考える時、やはり明るく元気に過ごしたいものです。それには今までの常識の枠を離れ、自由な新しい発想や考え方で生きるのが良いのではと思います。

その理想が「チャランポラン」です。一見、「真面目や責任」とは対極にある考えのようですが、今まで以上に豊かに生きるために必要なキーワードかなと思います。認知症防止のためにも、是非皆さん、一緒に楽しく、チャランポランに生きましょう！



チャランポランの会

運営委員・かわら版

土田三郎 宮里 カツ 太田 勉
コグチ友紀

CharanPoran USA
4733 Torrance Blvd., #768
Torrance, CA 90503 U.S.A.
☎ (310)600-5612
(メッセージを必ずお残し下さい)

Katsm2390@gmail.com
www.charanporanusa.org

皆さんこんにちは。昨年 10 月に総領事館に着任した、小島えりかと申します。1999 年、ノストラダムスの大予言の年に生まれた 26 歳です。このたびは、このような貴重な寄稿の機会をいただき、誠にありがとうございます。まだまだ若輩者の私ですが、今回はこれまでのロサンゼルスでの生活のなかで、考えたこと、感じたことをお話ししたいと思います。

まず、私の背景について少しご紹介いたします。中学生ごろから国際政治に興味を持っていた私は、模擬国連活動やユネスコ系組織でのボランティア活動を通じて、国際政治のテーマの中でも国境を越えた人の移動とそれに伴う文化の変化に興味を持つようになりました。大学進学後は、国際政治学に加えて政治哲学にも心を奪われ、移動する人々とそのアイデンティティをテーマに研究を行いました。米国のアジア系移民、中でも中国系に焦点を当て、自身のルーツと在住社会の間で揺れ動くアイデンティティを見つめました。

研究の道に生きる覚悟で進学した大学院ですが、研究に行き詰まりを覚え、修了後は市場調査を行う一般企業に就職しました。それでも、研究に関連した領域で生きることへの憧れを捨てきれず、「専門調査員」の職を見つけ転職を決意し、今、ロサンゼルスで働いています。

私が着任してから、早くも 8 ヶ月が経ちました。この期間は、私にとって初めての経験ばかり。戸惑いの連続でした。転職、一人暮らし、海外勤務、そして政府系機関での勤務。どれも私にとって初めての挑戦でした。この期間に私が経験した数え切れないほどの「初めて」は、私の心を何度も折りかけました。

そんな中、私を支えてくれたのは、ロサンゼルスのお空気に、私がかすかに混じる日本の雰囲気でした。身近な場所で日本食が手に入り、街ではアニメや漫画のグッズを身につけている人とすれ違う。異文化のさなかにいるはずなのに、たしかにそこには「日本」がありました。

なかでも、私の一番の心の支えになったのは、小さい頃から習っていた茶道です。日本を旅立つとき、私の茶道の先生でもある祖母に、なかば無理やり略式の茶道具一式を持たされました。当初は期待の重さを感じ、迷惑にさえ思っていたのですが、苦しいときにふと道具を開いてみると、不思議と心が落ち着くことに気がつきました。そこから、当地でお稽古を再開することを決意し、自分の流派の先生を探すに至りました。今では週 1 回のお稽古の時間がなによりの気分転換になっています。

ふとした時に日本食を楽しむことができ、ふらっとお茶の教室を探すことができる。ロサンゼルスにそんな希少な空間にさせているのは、間違いなく日系人と在住日本人の方々の積み上げてきた歴史と信頼だと感じています。日系人の長い歴史も、米国の社会と文化との関わりの中で、どのように日本とのつながりを定義するか、という試行錯誤の一面があるのではないのでしょうか。情報伝達が今よりもはるかに遅い時代に、遠く離れた日本から船ではるばるやってきた当時の人々の苦勞は、計り知れません。

読者の皆さんも、米国に初めていらしゃったときはたくさんのご苦勞があられたと推察します。そんなお一人お一人のご苦勞が、いまのロサンゼルスジャパニーズコミュニティを作り上げているのだと感じ入るばかりです。私のロサンゼルスでの生活は、周りの人々だけでなく、先人たちを含めた多くの人々に支えられている。そのことを思うにつけ、尊敬の念に堪えません。

仕事では現役世代の方々と接する機会がほとんどの私ですが、最近はお茶を通じてシニア世代の皆さんとの関わりも増えてきました。米国社会でたくましく生きてこられた大先輩のお話はどれも興味深く、はっとさせられることばかりです。なかでも、ある方のおっしゃった「ロサンゼルス日本人社会には『明治』が生きている」という言葉は強く心に残っています。皆それぞれ、日本を旅立った当時の日本社会の空気を内に有しながら、コミュニティを形成していることの不思議さを感じたエピソードです。

私の学生時代の指導教官は「人の顔の見える国際移動」を見つめることの重要性を常々説いていました。日本という同じルーツを持ち、今この瞬間をともにすることの奇跡を感じながら、これからもより多くの方と出会っていきたいです。お会いした際は、ぜひ、皆さんの物語をお聞かせください。



お稽古仲間の皆さんとの茶会にて（右から二番目が筆者）

特派員時代を回顧する ②

後藤 英彦 時事通信社元 LA 特派員
(Los Angeles 在住)

某商社のロサンゼルス支店長に紹介された彼女の印象は「背の低い人だな」というものだった。相手は「オノヨーコです」と自己紹介した。場所はロサンゼルス総領事公邸の中庭、時是一九七五年、天皇（現在の上皇）誕生日（四月二九日）を祝う日米の要人二百人余で中庭は埋め尽くされていた。

実際の彼女の身長は一五七センチ、半世紀前の日本人女性の平均身長よりむしろ高いほうだった。なぜ彼女を低身長とみたのか釈然としないが、比較的無表情で落ち着いた様子がある様子が記憶にある。ロッカーや前衛詩人に全く無関心だった当時の私には、オノヨーコをビートルズのジョン・レノンと結び付ける知識など持ち合わせていなかった。

帰国命令が下りて東京本社に戻った一九七九年の三年後、米商務省から思いがけない招待状が届いた。「米国で取材に従事したジャーナリストが米国にどんな印象を持って日本に帰国したか。その後の米国がどんな発展、変貌を遂げたかをじっくり観てほしい」という趣旨だった。

米商務省発行の招待状と無料パスが届いた。視察旅行の期限は二か月以内。米商務省と契約している航空機、ヘリ、船舶、電車、バス、タクシーなどあらゆる交通機関、ホテルなどの宿泊施設、食事や遊興費などの一切はすべて無料とのことだった。現実離れしていた。

他社の米国特派経験者に訊いても米商務省からこの種の招待を受けた事例は過去になかった。米大使館に問い合わせると本物の招待状だった。商務省の条件はただ一つ、日本のメディアに旅行記を書くことだった。帰国後、週刊時事（三五万部発行、のちに廃刊）に三ページ書いた。



Yoko Ono & John Lennon (Google Image)

ニューヨーク、ワシントン、シカゴ、ヒューストン、サンフランシスコ、ロサンゼルスを一週間で回った。ニューヨークのタイムズスクエア

のヒルトンホテル最上階に泊まった時のことだった。外出中の総支配人の代理を名乗る人物が挨拶に来てフルーツとワインを差し出した。

「一九六〇年代後半、この部屋にジョン・レノンが泊まり、イマジンの歌詞を書いた」と彼は言った。「書いては消し、破っては丸め、書き損じた紙を部屋のごみ箱に捨てた。掃除人がそれを拾って当時の総支配人に届けたそ

うだ。レノンの書き損じた紙がどこに行ったのか知らない・・・」と彼は言った。

世紀を超えて有名な曲の一つイマジンは一九七一年、オノヨーコの書いた詩「グレープ・フルーツ」から着想を得たとされる。レノンも後日、「イマジンは妻ヨーコの詩に触発され創られた」と語っている。詩人としての彼女の存在に全く無知だった一九七五年当時の私はとんだ木偶の坊だった。



第三九代米大統領のジミー・カーターと握手(筆者左)

第三九代米大統領のジミー・カーターさんには、一九八二年の秋ごろ会った。米大統領二期目を目指したカーターさんだったが、カリフォルニア州知事だったロナルド・レーガンさんに敗れた。大統領を辞めたら在任中の史的映像や業績の記録等を収容する大統領記念館（カーターセンター）を建てる必要に迫られた。金ズルをもたないカーターさんはその資金源を日本政府に求めたが、婉曲に断られた。

日米経済摩擦は激化の一途をたどっていた。当時の私は日米摩擦は主として商習慣の違いからくる誤解、文化の違いによる行き違いと考えていた。例えば野球。同じルールのスポーツなのに、ホームランによる得点を最も喜ぶ米国人と、バントでコツコツ得点を稼ぐ日本人の精神構造の間には大きな溝があった。同様に商行為における手法の差異が日米経済摩擦を産むと考えていた。

例えばホームランで得点を稼いだ時、投手が打ち込まれた時、野手が痛恨のエラーをした時など、同じ場面なのに異なる両国民のリアクションを比較、映像化したらどうか。テレビに映った日米の文化の根本的な違いを比較し理解させることで、文化摩擦による誤解を解く努力をすべきではないか。

この趣旨を英語にしたため、帝国ホテルに秘書と滞在していたカーターさんに手渡した。ABC テレビやNBC テレビと親交のあったカーターさんだったが、レーガンさんに敗れた言わば過去の人に、テレビ界を動かす余力はほぼ残っていなかったようだ。しかもカーターセンター建設の資金集めで頭の中はいっぱいだった。後日、「ご提案の件は大変難しい」との返事が来た。

昭和と令和の違い！

運営委員

昭和の時代◎

令和の時代●



時 代

◎戦前・戦中・戦後復興・高度経済成長期 ●デジタル社会・コロナ禍・少子高齢化・AI

技 術

◎白黒テレビ→→カラーテレビ、車/電気製品の普及 ●スマホ、AI, SNS

教 育

◎詰め込み教育 ●アクティブラーニング、個性重視

文 化

◎演歌、時代劇、手紙、カセットテープ ●YouTube、アニメ、ゲームの世界的人気 SNS

ま と め

◎物が足りない時代から、豊かさを築いた時代 ●多様性とデジタルを軸に、変化の中で生きる時代



DIGITAL

資料 C GPT

昭和と令和の違い

Sumiko Cole

カリフォルニア在住

- 1) 教育： 波乱万丈な昭和時代、修身でしっかり育った昭和の子。何時からか平成になって令和になった、さっぱり分らない外国くらしの昭和の子。



- 2) 日常生活： 現金が無くともプラスチックカードで買い物が出来て日常が楽になった。吾輩。



- 3) 家族： 昭和時代は家族が居て家庭があった。令和時代は世間の目がなくなり自由になった。即ち“平和”。



- 4) 医療： 昔と違って医者も機械も技術も薬も保険会社も、時代と共にすべてが進んでいる。人生50年とはもう聞かなくなったが今は人の年など、どうでも良い。



米国へ来た理由/アンケートの結果

ちゃらんぼらんの会の会員よりの回答、ありがとうございました。

名 前	男性	女性	居住した時の年齢		# 1	# 2	# 3	# 4	# 5	# 6	# 7	# 8	# 9	# 10
	▲	△	前半	後半	移民	駐在	親族	友達	留学	飲食	永住権	結婚	旅行	その他
K.I	▲		20代											▲
K.H	▲		20代			▲				▲				
K.T		△	30代								△			
K.M	▲			30代		▲								
K.W	▲		80代								▲			
K.T	▲		40代			▲								
H.T	▲		40代			▲								
T.K	▲			70代							▲			
T.O	▲			20代									▲	
K.K	▲		40代						▲					
Y.T	▲		30代			▲								
K.N		△	30代			△								
Y.K		△	30代						△					
M.R		△	30代								△			
M.T	▲			20代		▲								
M.T	▲			20代	▲									
M.T	▲			20代		▲								
A.R		△	20代									△		
Y.T		△	30代									△		
I.S	▲			20代		▲								
J.J		△	20代						△					
H.G	▲		不明			▲								
S.O		△	20代									△		
K.M		△	50代						△					
E.J		△	30代									△		
M.M		△		20代								△		
M.M		△	50代						△					
S.S	▲		30代					▲						

米国へ来た理由: 1 移民 2 駐在員・家族 3 親族・親戚を頼りに 4 友達を頼りに来た 5 留学・卒業して引き続き滞在

6 レストランの仕事 7 永住権が当たった 8 米国人・永住権保持者と結婚 9 旅行で来てそのまま居残り 10 その他

日本旅行・沖縄

國吉 信義

Palo Alto, CA

話（１）

品川のホテルを出てモノレールに乗って羽田へ向かった。羽田発の沖縄行の便に乗るつもりだった。車中、ショルダーバッグを棚に載せて、スーツケースは足元に置いていた。空港に到着すると搭乗手続きをするため航空会社のカウンターに向かった。歩き出してすぐ棚に置いていたショルダーバッグを忘れたのに気づいた。予約情報を印刷したペーパーをポケットにもっていたので搭乗券を買って機内に入り座席についた。飛行中、忘れたショルダーバッグが気がかりだった。バッグの中にはパスポートやチェックブックや手帳などを入れていた。沖縄に着いて家族にバッグのことを話すとますます心配になった。パスポートは闇で高価で売られるという。実家で東京に住むいとこに事情を話した。彼は電車会社に連絡した。終列車の後、車内を点検して忘れ物は事務所に集積されるという。集積所に連絡すると私のバックがあった。うれしかった。私が降りた後、何百人の人が私のバック見ていたのに誰も手を付けなかったのだ。日本人はなんと正直かと感激した。

話（２）

沖縄のスナックに一人でいた。友達に連絡して誘った。タクシーで駆けつけてくれた。しばらくして彼は財布をタクシーに落としたことに気づいた。タクシー会社に連絡した。やがてタクシー会社の運転手さんが彼の財布を持ってきてくれた。彼の後、何十名の人がタクシーに乗り降りしたはずだ。運転手さんが拾って預かってくれていたのだ。日本（沖縄）だからこんな事があろうと感心した。



モノレールで空港へ



親切なタクシー運転手さん

特集

米国へ来た理由・エピソード

高橋 正弘 ロサンゼルス在住

1964 年、駐在員として New York に転勤。1972 年、家内の希望で移民を決意、退職願いを出して渡米。その後ブラジルに転勤となり。再び米国勤務で LA、NY、NJ に転勤して 2008 年に退職し現在に至る。当年 92 才。

若佐 邦彦 米国在住

在米生活 50 年。日本へ帰らなかつたか自問自答する時があります？そもそも旅行好きで風来坊的要素が強かったので西ヨーロッパへ旅たち、最終的にはルクセンブルクでした。折角ヨーロッパ大陸を旅したので、ついでにアメリカ大陸に渡ろうと小さなプロペラ機でニューヨークに 1975 年 10 月に無事に辿り着きました。凄く寒い気候であつたので、いずれ日本に帰る事だし温かい夢のカリフォルニアへ行きました。恥ずかしながらひもじさに耐えながら日本食レストランでの皿洗いのスタートでした。グレンシャールの寿司レストランから始まり、サンタモニカ、スタジオ・シティ、トルカレイクのレストランのレストランに転々と職場を替えた人生。リタイアして、今年卒寿を迎え 80 才の壁を乗り越え、健康体を土台に周囲に感謝して大切に明日へ向かいたいです。

井上 邦雄 カリフォルニア在住

夢を達成させる為に保守的な日本を後にして武者修行の旅に出たのが 1971 年の春だった。ニューヨーク、ニューヘブ、ヒューストン、ロサンゼルスと順を追っての修行の街となった。腕を磨くために、そこに住み、さらに超現代建築デザインを学び、働いた。アメリカでの戦いは常に心理的な戦いであつた。私は建築のレポートホリオ抱えるようにして、街角のベンチに座っていた。見知らぬアメリカ人が寄ってきて、絶望的な顔をしている私に話しかけた。[アメリカには ” 不可能 ” という言葉がない。努力すれば必ず自分の夢は達せられる]。途方に暮れていた私に小さな希望の光のビームを注いでくれたのだ。私はアメリカの何処の街でもポジティブに生き、行動するようになった。この旅は単に建築の夢と自由を求めて武者修行の旅だけでなく、如何にベストを尽くして生きるかの人生の長い旅となった。

松岡 みな子 ロサンゼルス在住

結婚して落ち着く前にアメリカが見たくて来たのです。その間、こちらの住人でいた主人と出会いそのまま居座りのグループです。もう 60 年前のードル 360 円の時代で、女性の入国がとても厳しい時でした・・・・・・

大田 祥子 ロサンゼルス在住

航空会社に勤務していた事で行き来していた事、又 日本の出版社に頼まれて、現地での建築、インテリアデザイン関係の取材記事を書いていました。そこで多くの人達と知り合うきっかけが出来たことが、アメリカ滞在のきっかけとなりました。20 才で居住、米国人と結婚。

澤田 道孝 ロサンゼルス在住

1972 年、ロサンゼルス兄を頼りに米国へ来ました。当時はベトナム戦争中だったので、兵役にかかるのでわと心配しました。

佐藤 五十二 カリフォルニア在住

20 才後半に駐在員として渡米、4 年後に買収され会社が消滅。倉庫へ転職し 24 年目になる。

高橋 かおる・女性 米国在住

32 才で駐在員の家族として来ましたが、その時は既に日本で永住権を取得していました。その後、59 才の時に市民権を取得し現在に至ります。

米国へ来た理由・エピソード

本多 和成 米国在住

1969 年、ニューヨークの紅花店のオープンにきました。かわら版は今の私の生きる知恵、辞書、娯楽でもあります。ありがとうございます。1945年生まれ。

Akemi Reece サンディエゴ在住

1975 年、23 才の時知人を頼りに米国へ来ました。米国人と結婚したが、後に夫が離婚訴訟に持ち込まれたが、今は幸せに米国で暮らしている。

土田 三郎 ロサンゼルス在住

ヨーロッパ留学を終える頃、「日本に戻ったら、過ぎ去ったことはすべて白紙に戻して、ゼロから再出発だ！」と決めていた。6年ぶりに日本に戻った。縁により社員がドンドン辞めていく倒産寸前の会社に、私は拾われた。チャンスと思った。高度経済成長期であったので仕事はあった。しかし、主要な社員の辞任により人手不足であった。私はどんな仕事でも与えられた仕事に、朝から夜遅くまで必死に働いた。会社の業績が次第に良くなった。その後、役員会議でロサンゼルス支社開設の提案があった。私はこれもチャンスと思った。「行かせてください」と手を上げた。36 年前であった。おふくろは、その 1 年前に他界し、私の肩の荷が軽くなっていた。

太田 勉 ロサンゼルス在住

1970 年、大阪万博の年。それまで勤めていた会社を辞めて、故郷の津市で不動産会社をやっている父親の仕事を手伝う前に 1 か月半の海外旅行に飛び出しました。最初に降り立ったのがロサンゼルス。たったの 2 週間の観光ビザでした。予定では この間にラスベガス・グランドキャニオン・サンフランシスコと回ってカナダのバンクーバー・モントリオールを経てヨーロッパ・スカンジナビア地方などを巡るはずでした。ところが、初日のロサンゼルスが余りにも素晴らしく、それまで 7 年間暮らしていた、夏冬の厳しい京都からみれば、それはまるで天国のような気候でした。地球上にこのような素晴らしい天気のある場所があるのなら、ちょっとここで長居をしてみようと、後の旅程をすべてキャンセル。それが気が付けば 56 年も住み着いてしまうことになろうとは…。もし、あの日のロサンゼルスが曇りや雨模様だったら、私の人生はまた違う方向に行っていたことでしょう。お天気人間の私でした。

宮里 勝 ロサンゼルス在住

東京の本社からハワイ州ホノルル市へ転勤命令がでたのが 1972 年、第一回オイルショックの時代、でも安全なワイキキ海岸でした。日本に帰国後、アメリカ本土へ行きたい願望でロス駐在の募集があり面接/試験を受け、見事その資格を獲得、1979 年にロスへ駐在員として転勤。駐在員の宿命である[転勤]に再び赤紙を得たが、家族会議で米国に残る決断。以来ほぼ半世紀を米国で過ごしている。感謝の一語。

赤嶺 富士子 (現在 福井県在住)

1967 年 8 月、2 年間の予定で英語の勉強にとハワイに渡って来たのだが、日系二世の A 氏と結婚。いつの間にか半世紀以上を地上の楽園といわれるハワイの住民となって暮らした。日本にいた時の教員の経験を活かしてハワイでは日本語学校の教師として約 30 年ほど勤め 66 歳で引退した。その間に夫の急逝、日本にいる父母達との永遠の別れなど、悲しい事も沢山あった。子供がいないので一人になって引退後は趣味の生花、習字、詩吟、カラオケ、旅行などと、のんびり自適な生活を送っているうちに月日は流れ、90 歳を目前にやはり人生の最期は故郷日本で暮らしたいと思うようになった。動産・不動産を始末して帰国して早いもので 2 年になる。今は高齢者用サービス付きアパートに入居して毎日のんびりしている。

黒沢 洋美 Beverly hills 在住

私自身少し変わっていますので日本の社会よりアメリカの方が合っています。今ではアメリカ市民です。主な理由は選挙に参加できる事、それと発言の自由。何を言ってもいいしね。トランプさんのほらふきには驚きでしたがね。クリエイティブは事が好きで色々な事に興味があます。時々この国でイヤな思いもしますけれど、呑気に洗い流すこともマスターしました。今はシニアの生活をエンジョイしています。毎日の色々な事の中にチャレンジ・エキサイトメントは探せばどこでも見つかります。人生まだまだ寝たきりになりたくないで、足が動く限り歩きましょう。それに頭を使って手紙を書きましょう。大切なのは毎日の積み重ねですのでガンバリましょうね。

米国へ来た理由

おじさんハコガメ と暮らす為



山口 順子 California

1981年初め、1年2ヶ月住んでいたブラジルのリオデジャネイロから帰国する途中、LAに駐在していた友人の所へ10日間程滞在する事になり、動物好きの私は、ペットショップに案内されたのですが、犬猫ではなく、爬虫類のお店でした。

その事が、後にLAに住む決定事項となりました。

いろいろな種類のカメがたくさんいて、店員さんが触っていいよ〜と言ってくれたので、頭を撫でようとすると皆ヒュッと甲羅の中に引っ込めて誰も触らせてくれませんでした。

でも、一人(1匹)だけは、首を伸ばし頭を私の手の平に押し付け喜んでくれました。

その小さなハコガメは30歳位のおじさんなので人ずれしているんだ...との説明でした。私は嬉しくなって衝動買いをしてしまいました。

ところが、そのカメは下痢をしていたので、すぐに近くの獣医さんの所へ入院させ1ヶ月程して退院になり、予防接種と空港で提出する書類について問い合わせたところ、この種のカメはペットとして飼うのは禁止されているので証明書発行は出来ない...と言われ、私は目の前が真っ白になりました。ペットショップから連れて来てすぐなら返しに行きましたが、Darlingと名前も付け入院中頻繁に訪ねては、頭をなでなでして、すっかり情が移っていました。

日本にいる母へ電話で事情を話すと「そこに残って、そのカメと暮らすしかないでしょう！カメさんは取り敢えずあずかって頂いて、一人で帰って来なさい。何とか方法をみつけるから。」と、強く言われました。

私は子供の頃から学校の成績が悪くても、母に叱られた事はありませんでしたが、こと生き物に関しての世話をきちんとやらずにいると、とても厳しい母でした。

Darlingを友人と獣医さんをお願いして、私は日本へ戻りました。

母は親戚、知人、友人に電話をかけまくり、LAで小さなお店を出す知人を見つけ、私が、その資金の1/4を出しマネージャーをする事でE2 VISAを取得し、その年の秋に無事LAへ戻って来ました。

数年後、結婚し(人間と)、ハコガメの他に、飼い主に見捨てられた陸ガメ、犬、猫、鳥、ねずみ、タランチュラ、ムカデ等、全くプライベートで生き物の保護をし続け、夫は17年前亡くなり、その後、保護した動物達も逝き、家にもお金にも別れを告げ、現在は、狭いゴミ箱さながらのコンドで、おじさんになったハコガメとふたり暮らしをしています。

先日、日本にいる友人とLineでお喋りしていて、「そろそろ日本に戻ってきたら...」と言われ、問題のカメの事情を話すと、彼女が調べたところ、その種のカメは日本にもたくさんいて何

の問題も無い...と、写真入りの記事をたくさん添付して来ました。それを見て、私は44年ぶりに、再び、目の前が真っ白になりました。

何の為に、アメリカに来たんだろう??

でも、今更、仕方ありません。

私は、おじさんになったDarlingに「これからも、二人でのんびり、アメリカで老後を楽しもうね!!」と申しました。彼は、頭をグツと持ち上げて、私を優しく見つめてくれました。



イメージ写真 ハコガメ

米国へ来た理由

橘 婦美子 San Diego, California 在住

米国へ来た理由ですね?

日本での離婚が直接のきっかけです。日本では大学英語教師の傍ら英語における文芸的な活動に励みつつ英文修行もしたかったので離婚を期に飛躍したかったので(その願いはいまだ発達途上です)。自活するには母国語を教えることしか思いつけないためとりあえず日本語の養成講座を取得しました。ライター仲間の友人夫婦がサンディエゴの就職情報を送ってくれるなど就職活動を開始したところ、某語学校が面接をしたいと貴重な手紙が舞い込んだため渡米しました。36年前のことでした。気楽に渡航したのは当時英米人が主宰する東京英



写真は当時 Downtown の 7th and C Street の Odeum Café and Bar で Reading を行いました。11/25/1989

文学会にはバックパックで日本にやって来る人たちが日常的に出入りしており互いに激励しあい私も旅行や生活の立て直しに全く抵抗がなかったのです。サンディエゴに来た当初は詩集を出すことが決まっていたので町のカフェなどではよく Poetry Reading を行い、遅いが元気な出発となりましたが、波乱万丈の幕開け序曲にすぎませんでした。🌸

米国へ来た理由

花岡 綾子 Daly California 在住

1970年12月、婚約していた今の主人とニューヨークで結婚する為渡米、ペンシルベニアのスポンサーの家(リン・マリア博士夫妻、オランダ人のおばあちゃん、娘3人、息子1人、居候でアル中のジェニファー、未婚でお腹の大きいゲイル、バイオリンニストのダン、私達を含め12人とお産が近いゴールデンリトリーバー)に数日住む。アル中のジェニファーが、リン博士に来た電話を取って、”リン、テレフォン”と呼び捨てしたのは驚き、毎日パンをやいているおばあちゃんが、お祈りの時、“パンが食べられるから押さえていなさい”と私に囁き、まさかと思っていたら、本当に勝手に食べ始めていたジェニファー。まるで映画を見ているような生活で、楽しい思い出になっている。



ニューヨークで挙式



当時の東京国際空港特別送迎待合室 入場券

絵手紙川柳



あの町、この町、あなたの街

私の住むカールスバッド (カリフォルニア)

岩田かおる 加州カールスバッド

私はカリフォルニアのカールスバッドに住み早 40 年が経ちました。

FWY 1-5 を南下、サンディエゴ・メキシコ方面に向かう途中にカールスバッドという風車小屋のレストランのあるパロマエアポートを降りて東に向かうとすぐお花畑が見えます。イースターサンディにはお花畑でサンライズサービスがあり、牧師さんのお話しの後ランチが出るそうです。



カールスバッドの 4 月はラナンキュラスのお花畑が満開になり賑わっています。5 月からはウケガワ農園のいちご狩りが始まります。また海にはアザラシ、イルカ、クジラも沖合に小さく肉眼でも見える時があります。ペリカンポイントというポイント カールスバッドステイトビーチには毎日カリフォルニアグレーペリカンが北へ南へと飛んでいます。私は毎日のようにビーチにお散歩、そしてタイチをし、いい空気を吸い込みに行っています。

リタイヤしてからはカールスバッドシニアセンターでのダイニングのボランティアをはじめ 3 年がたちます。最初はいろいろな体操のクラスを楽しんでいましたが、ミールウィール、食事の出前ボランティアをして今はダイニングボランティアを楽しんでいます。同じ年代の人達とお話して「ボランティアをしてくれてありがとう」と言われます。私の大好きなカールスバッドに恩返しが出来てとても嬉しいです。

タマラクビーチの方には牡蠣の養殖場もあり、シニアセンターの遠足ツアーで見に行き食べて来ましたが牡蠣は小さかったです。シニアセンターでは無料の法律相談、リタイヤ整形外科医との相談、ヒアリング アイサイトの相談、無料タックスリターン、PRP など関節再生医療のセミナー、トラストセミナーなどになる無料セミナーをやっているので出かけています。カールスバッドタマラクの聖パトリック教会でのホームバーンの聖体拝領、ホームレスシェルターの必要物資を運ぶボランティアもやっています。

パティキトスラグーンのトレールもあり、ペットの犬

が生きていた時には毎日行っていて、犬がガンになった時には体調が良くなるので塩のふく地面をグランディングさせに行っていました。

2 年前には母の介護で日本との往復になり、妹が母親を看っていて疲れから入院、義父の入院とで行ったり来たり、頭がグルグルして来ました。

私は介護の仕事をしていたので役にたち本当に良かったです。日本とアメリカの介護施設を見て回り勉強になり



カールスバッドに住むご老人のお手伝いをさせていただいています。

今はシニアセンターと一緒にボランティアをしていたご家族のいない 94 才の富さんのお手伝い買い物のボランティアをしています。そんなカールスバッド市に感謝しています。



目黒川の桜

Etsuko Jensen Ashland, Oregon

前回 21 号の表紙の写真 (東京・目黒川の桜)、懐かしく拝見しました。私が住んでいた中目黒はこの様な見事な桜並木や、川の兩岸には全く高いビルなどの建物もありませんでしたので驚きました。

米国移住は 30 代前半で米国人との結婚でした。



故郷「日本」に想うこと

青野 桂子 カリフォルニア在住

コロナ禍で入国規制のあった2年半を除く50年間日米間を往き来してきました。私にとってはアメリカも日本も帰る場所です。近年の日本ブームで日本に到着する空港に始まり何処へ行っても外国人観光客で溢れるようになりました。



50年間、日米間を往き来

日本文化がこんなに世界で愛されているのかと嬉しい反面オーバーツーリズムの弊害も多く目につくようになりました。絶賛される日本食ですが人気のラーメン、唐揚げ、ギョーザ、溢れるお菓子等々現代日本人の食生活は癌、糖尿病、自己免疫疾患、心疾患、果ては心の病等々の罹患率を爆上がりさせています。

私事です。戦後の日本の学校給食で育ちその延長でパン、ピザ大好き人間だった私が最近知った4毒抜き(小麦粉、植物油、乳製品、甘い物)食生活を心がけ体調がすこぶる良くなりました。それに大きな気掛かりは日本全国津々浦々エッと驚くような場所にまで美しい自然を破壊して大規模設置が進む中国製のソーラーパネルで目にする度に胸が痛みます。免税店、コンビニ



オーバーツーリズム

の店員、ホテルのフロント、ハウスキーパーなども外国人が増えて、日本人が日本語で対応してくれるお店があると嬉しくなってしまう位です。日本人が絶滅危惧種になってしまうのであれば良いがと真剣に思っています。



健康食？

偶然、それとも？(その2)

コグチ友紀 カ州・ハモサビーチ在

12-3年ほど前のある日のこと。アルタディーナのイトンキャンニオンには少しだけ奥入瀬渓流にも似た、滝まで続くトレイルもある、LAには珍しい素晴らしいハイキングコースがあります。私と愛犬はハイク、相棒はマウンテンバイクと、毎週のように通っていました。現地に向かう車内で私はふと愛犬に「Let's go see the goats!」と冗談で言うと、相棒は「No way, no goats around there.」と笑っていました。



ヤギを2頭連れて散歩する」おじさんに遭遇！

トレイルを歩き始めてしばらくすると、山肌を首輪もつけていないシェパードのような犬がとっとこ歩いていた。いやだな、と思ってよく見ると野生のコヨーテでした。しばらく見つめ合っていたんですが、実はうちのチビ犬を狙っていた事に気がつき、後から考えるとかなり怖い遭遇でした。

さらに進むと、今度は犬のようにヤギを2頭連れて散歩するおじさんに遭遇！ヤギ好きな愛犬は大喜び。

このトレイルは何十回も訪れていますが、犬以外を連れている人は初めてでした。車で待ち合わせしていた相棒に話すと「No way, you're kidding!」と信じてもらえませんでした。スマホの証拠写真を見せると納得。日にちも時間もはっきり入っています。これはきっと、ワンコにも奇跡が起こるのですね！



野生のコヨーテが愛犬を狙っていた！

みんなの広場 感謝箱 小笠原和子 カリフォルニア在住

私は今、貯金箱(へそくり)を「感謝箱」という名前を勝手につけて楽しんでいます。楽しいことがあったり、嬉しいこと、又思いやり(させてもらったり、受けたり)があれば、その都度「ありがとうございます」と「感謝箱」に声をかけて、チャリン(\$1)。これが結構楽しいのです。でも最近「感謝箱」から「入金はどうなっているの?」とお叱りを受けているところです。悲しいことに、このところ感謝することが余りなくて---

さて次にこのお金の使い道が問題です。あれも、これもと欲しいものが一杯あります。でも折角感謝して貯めたお金を自分のために使うのはどうかなあ?なんとなく勿体無いような気がして、結局お金は何かのドネーションに、と考えています。

早速「とんぼ絵手紙川柳」のクラスで「感謝箱」描き、「感謝箱」を皆さんにお披露目させていただきました。

これを機に、お友達にどんどん「感謝箱」を勧めていきたいと思っています。



使い道 買うのはガマン ドネーション

沖縄の面白い『ことわざ』

当銘 貞夫 沖縄出身： ロサンゼルス在住
(元沖縄県人会会長・南加県人会協議会会長)

私は沖縄で生まれたが住んだのは18歳まで、あとは東京で10年、カリフォルニア州で55年の歳月が流れた。ここしばらく沖縄に帰郷していないので、そのことを中心に、沖縄の新聞の「通信員」をして30年の経験をもとに、わかりやすく書いてみたい。女房は東京出身。

カリフォルニア州でグレンデル・シティー・カレッジを卒業、アメリカの市民権を取った。さぞかし沖縄のことを忘れたのではないかと思うかもしれないが、どっこいそうではない。沖縄には面白い「ことわざ」が数多く残され、今もって私の人生に役立てているのです。

その一例。「ナンクルーないさ」（意味は人生は何とかなるもんだ、そう慌てなくてもよいのでは）。

その二。「意地又出しらあ、手引き、手ぬ出しらあ、意地引き」。腹が立ったら手を出さない。手が出そうになったら、立腹を抑えよ。という戒め。

その三。「学問知っち、物知らん」。学問はわかっていても、もの知らずで、はダメ。いくら勉強ができて、常識や世間知らずではいけない、という戒め。

先月の沖縄の新聞[琉球新報]に掲載された私の記事をごらんになってください。

チャランポランの会 夢と笑いのかわら版 を読んで

当銘 貞夫 海外通信員 — LA 通信員

その趣旨とは、チャランポランの会は、シニアの方々が生きがいをもって人生を楽しみ、健康で長生きすることを目的としている。シニアだから言える苦言、提言、さらに奉仕まで、参加される皆様と一緒に考え、作り上げていく会である。

風に揺らんでいるチャランポランな葉っぱであっても、その木の根っこは長い人生を歩んできた分、どっしりと深く広がっているシニアの木。その「シニアのシニアによるシアのための雑誌」がこの「かわら版」だ、と銘打っている。

運営方法がまた面白い、なんとフリー購読だが、会員からの「寄付」で賄っている。アメリカの連邦政府からNPO（ノン・プロフィット オーガニゼーション、非営利団体としての認可を得ている、のでわかりやすく、読者に安心感を与えている理由の一つであろう。

20ページほどの小雑誌だが、写真をふんだんに使い、鮮明なインクを使った印刷で読みやすく、見やすいのが特徴として挙げられるのではないかな。

会の名称「チャランポランの会」とはまたなんと面白いではないか。運営委員の一人、宮里カツさんは「これからの人生を考えると「まじめや責任」とは対極にある考えのようですが、今まで以上に豊かに生きるために必要なキーワードかなと思い、認知症防止のために必要なキーワードではないか、ぜひ皆さん、一緒に楽しく、チャランポランに生きましょう！」と結んでいる。

20号でのLA総領事：曾根氏の賛辞、21号の「特派員時代を回顧する」と題して時事通信元LA特派員：

後藤英彦氏（LA在住）のエッセイも見どころ満載であった。

サイトで創刊号から新刊まで読むことが可能である。

www.charanporanusa.org/page/kawaraban



那覇市



Anchi Beach

カリフォルニアの地上絵

森田のりえ California

K さんに誘われた。一瞬、ナスカの地上絵が脳裏をかすめ「南米ペルーのですか」と、聞き返すと「カリフォルニアにも地上絵はありますよ。1920 年代、お金持ちのアメリカ人が小型自家用機でコロラド河沿いを遊覧していると砂漠に奇妙な絵があるのを見つけました。それを見に行きましょう。日帰りできます」という。

早い方がいい。私たちは 2 月のある朝、インターステート 10 号線をひたすら東に向かって走った。パームスプリングを過ぎると、荒涼とした砂漠地帯に入った。山や丘は海に浮かぶ島のように見える。Blythe でガソリンを満タンにし、95 号線を 20 分ほど北上したあたりに「BLYTHE INTAGLIOS」と書かれた甲板があった。砂利道に入る。人気はない。ゆっくり走ったが、いつの間にか石ころの山道に入った。タイヤがちぎれそうになった。限界だ。車から降り小高い丘から地上絵らしきものを探したが、ない。覚えていないのですかと声を荒げそうになった。

「なにしろ来たのは何十年もまえですから」と、にべもない。

砂漠の地質調査団の一員だった K さんは、こんな話をしてくれた。

1970 年代にアメリカはオイルショックに見舞われた。中東のオイルに依存できないと思った政府は原子力発電所を建設しようとして、断層のない地盤を調べるための依頼があった。原発建設は中止になったが、調査している最中、偶然に地上絵が見つかった。目的も描かれた年代もわからなかった。昨今の若者がバイクや四輪駆動で走りまわって荒らされ消えそうになっていたところを、民族文化財として金網を



地上絵・人

張って保護した。「とにかく金網が目印ですね」。私たちは来た道を引き返そうとしたそのとき、何気なく右手を見た。あった、ありました。離れたところに金網が。入口に写真入りの案内板が隠れるように立っていた。

人物が一つ、動物が一つ、まぎれもなくカリフォルニアの地上絵であった。何千年ものあいだ太陽熱で黒く焼かれた地表面の砂利をかき分け、白っぽい砂地を出して描かれていた。

雨の降らない砂漠を一度傷つけると元には還りません。地上絵も人間がつけた傷跡とみてよいでしょう。後の調査によれば南ネバダからカリフォルニア湾にかけて大小 200 以上あり、人物や動物のほかにも幾何学模様もあると K さんに教えられた。



地上絵・動物

鳥海山の種まき爺さん

土田三郎

トーレンス市在住

久しぶりに雄大な鳥海山がそびえる故郷の酒田を訪れました。鳥海山の山麓では、冠婚葬祭を始めとして、人々の生活に密着した仏事や神事が行われます。農作業が始まる 4 月、5 月頃に、写真にある「種まき爺さん」の姿が庄内平野を見下ろす鳥海山の中腹に現れると、農家の人々は「さあ、田植えの時期だ。」水の神にお参りしてから、一斉に田圃にくりだす風物詩となります。トラクターで耕し、水を張る頃には「逆さ鳥海山」の勇姿が水田一面にに広がりこれも訪れる観光客の目を楽ませます。同時に鳥海山の麓ではコメ以外の産物の農作業も始まります。山奥に登る山菜取りでは、山の神様に神妙に手を合わせてから春の息吹の採取を始めます。これがこの土地の特産品となります。多忙な農作業が始まります。

庄内では冬になると吹雪が地面から拭き上げて厳しい生活となります。このため人々は口を閉じて防寒します。人々が無口で寡黙となるのはこのためです。そのかわりに忍耐力が付き、体の芯が強くなります。これが天の恵みです。

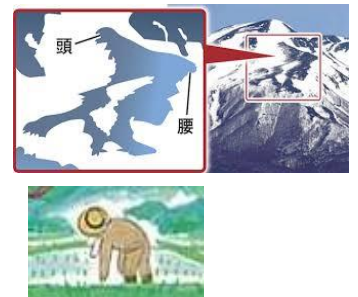
庄内平野は、酒井の殿様の鶴岡城下町と北前船が寄港する最上川酒田港を中心として、江戸時代から美味しい米の産地としても有名です。近年は「冷めても美味しいつや姫」が全国に普及しています。秋には黄金色が平野一面に広がり、待ちに待った収穫の喜びの時期で、人々は大自然の掛け替えのない恵みに感謝を捧げます。その区切りが氏神様のお祭りです。そして年間を通じて山や川、海の山河となる大自然と神仏を共有する質素な生活が繰り返されます。

法事では、綺羅びやかな礼装の和尚さんが先祖へのお教を上げるために我家にきます。子供の私は、母親のそばに神妙にチョココンと座り、和尚さんの仏の話を聞くことが楽しみでした。和尚さんが帰ると、手を合わせてお教の真似をすると、子供でも不思議に落ち着くのです。

今は人口減少により庄内の過疎化も深刻です。家族や親戚、同級生の数も、とても少なくなりました。鳥海山、出羽三山（羽黒山、湯殿山、月山）などの霊山を抱き、豊かな大自然に寄り添う知恵を授かる庄内の人々が、気まぐれなトラップ・ハリケーンに慌てず、じっくりと対峙してくださることを心から願っております。



鳥海山の種まき爺さんの雪形は赤色の○の中に見えます。



私の手料理

Keiko Martin Los Angeles, CA

毎日、毎日、食べていかなければならないので、料理は大変大事な作業だと思います。先ず買い物に行き、今日は何を作るか、Recipe があるときもあり、ない時は自分で、工夫して何か作ります。今は、一人暮らしなので、沢山作らないようにしていますがどうしても一人前という Recipe というのがないので多く作ってしまいます。残りは、料理をしないお友達がいるので、残しておいてあげるか冷凍しておいてあげます。それで取りに来てもらいます。料理をしないという人が二人ほどいて、残りはすぐなくなります。食べてくれると嬉しいです。料理は、ぼんと出てくるものではなく時間とエネルギーがいるので、捨てるのは躊躇します。日本人は、中華料理、イタリアン、フランス料理、和食、色々豊富に作ります。でも時々、和食は食材がないものもあり、そういう時は、何か他のもので代用しています。ただここは Filter の水を使っても、水が硬水で、日本の様にはいかない時もあります。豆腐も、一個買うと、多過ぎて、水を変えても、味が落ちてしまい結局、捨てることになります。タイ料理などは調味料が複雑なので、外に食べに行った方が、一手間省けます。心がけていることは、なるべく、鮮度のあるものを食べるために、毎



週、Farmers Market に出かけています。食べることは、健康につながり、しいては重い病気を避けることもできます。

この花の名前は？ シャロンのバラは幻の花か？

小倉二一ナ Torrance, CA

最近、野の花や近隣の植物の水彩画をやっておりまして、ある時見つけたのが日本人好みの灌木の花。田舎の母も庭先で育てていた「むくげ」かなあと早速グーグルで調べると英語名「シャロンのバラ」こと。びっくりして我が教会の牧師に問い合わせました。というのも昔から下記のような讃美歌を歌ってたのですが、その花の姿は知りませんでした。

(シャロンの花イエス君よ わが内に関き給え 良き香麗しさを我に分ち与えつつ シャロンの花イエスよ わが心に咲き給え)

うちの牧師解説：このシャロンの花は時代と言語によってムクゲ、バラ、ゆ

り、すいせん、サフランなどと訳されており、実はどういう花かわからないのです。「シャロンのバラ」でなく「シャロンの花」としておくのが一番でしょう。3000 年前にイスラエルに咲いていた花がどんな花だったのか、おそらく気候の違う日本やアメリカにはなかったかと思います。

ザンネーン、やはり幻の花なのね。讃美歌を歌う友達に宣伝しようと思っていたのにがっかり。

夢から覚めて一首：

「むくげ花 誰が名付けしシャロンのバラ 夢路に誘う古代の海辺」



Rose of Sharon Bush

旅日記

としえ アーメッド Torrance, CA 在住

1984 年頃、妹家族、友人家族総勢 13 人でキャンピングカーをレントレグラントキャニオンへ、その夜なんと車が雨漏り。

翌日ラスベガスへ、40 号線途中かろうじて路肩に駐車、車は完全に止まってしまった。トラック運転手にレスキューを依頼、2 台目にも依頼。大型トラックが走行するたびにキャンピングカーは横揺れ！恐怖！！刻々と闇が迫る。子供達はすやすや ^_^

Christian Mission と書いたバンから韓国人運転手が出て来て何と私達のストッキングを代用して V ベルトを修理し朝方ラスベガスに到着した。

後日妹が事故の最中あの満天の星を見た事が最高の思い出だったと語った。



満天の星 (Image Photo)



レントしたキャンピングカー (Image)



Grand Canyon

お勧めレストラン

宮里かつ・カリフォルニア在住

加州、トーレンス市街より Freeway #405、San Diego Freeway に乗り、南へ約 30 マイル走り、Laguna Beach 方面へ #133 線乗り換え西に走ると 15 分くらい。正面に穏やかな白波、紺碧の空が目に入るとそこは Laguna Beach 市。栈橋の反対側は急こう配の山並み、いや、高級住宅街が所狭しと立ち並んでいる、がキャンパスの中に描かれた“絵”になっている。この土地は風光明媚なことで画家などの文化人が多く住む場所としても知られている。街を歩くと画廊が軒を並べており絵画を楽しめる地域でもある。

街全体は広くなく、道路も狭いので駐車に困るときもあるが、市経営の駐車場に停めるのが賢い。道路沿いに歩道を歩けば画廊、小間物、おしゃれ衣類、レストランと沢山あるので散策しても楽しめる。その中に、ここに来たら必ず寄るバーラウンジがある。

海岸脇の崖の上に建っている“The Clif Restaurant



The Clif Restaurant / Laguna Beach

& Bar”がある。青空の下のレストランで、大きな青色の傘にテーブルと自然に

マッチしたセッティングだ。

テーブルに座ると否応なしに太平洋が眼前に見え、今にも波が押し寄せてくる感じもする、ダイナミックな光景に我を忘れるぐらいだ。

勿論、太陽の光が真面に貴方を照らすので、サングラス、帽子はお忘れなく持参。

アルコール類は Mango Rum, Bloody Mary, Sangria, Wine & Beer と各種用意しており、食べ物も魚介類、肉類のメニューと豊富に品添えしてある。

時間次第で、飲み物だけでも十分満喫できるし、アルコールと簡単なおつまみで暫しの時間を過ごすのも楽しめる。もし、夕日の時間に合わせて席が取れたら最高の夕陽を拝めること保証しますよ・・・

お友達、恋人、ご夫婦で忘れられない一日を過ごせます、是非、一度訪問して楽しんで下さい、癒されますよ。



夕陽は最高！The Clif Restaurant にて



ラグナビーチで乾杯！

体験記 ワイナリーとカジノツアー

小倉ニーナ Torrance, CA

爽やかな6月初旬の風の中、ブドウ畑丘陵が限りなく続く Temecula Winery を日帰りバスツアーで 200% 楽しんできました～。

きっかけはちゃらんぽらんの宮里さんのメール紹介に「おっ、参加費 \$15 とは格安じゃあ」と暇を持て余していた主人が飛びつきました。主宰は Orange County の OCJAA で敬老のグラントの助成金や会員の寄付金により、通常なら経費高のところ、格別の料金となったとのこと。

Costa Mesa にある Hilton Hotel からゆっくり 10:00 に出発すれば、窓の外は最高の初夏のピクニック日和。私より年配と思える案内役、ひろさんのバカ話に皆さんアハハハと気持ちがあほぐれてみれば、話の話題に同感できる 98% がシニアのお客様でした。一時間半後、バスの第一の目的地 Pechanga Casino で、アルコールがダメの主人はここで降りてしまったけど、女性客のほとんどはルンルン気分、まず Cougar Vineyard Winery に直行！



ワインテイスティングは料金（希望者のみ \$25-\$30）を払うとカードが渡され、自分の好きな 6 種類のワインをテイスティングすることができました。買

えば一本 6.1 ドルするワインより 4.0 ドルのワインの方がおいしかったなあ、などなど。そのワインをすすりながら、眼下に見下ろすぶどう畑を見渡すすばらしさ……。若い時、日本に帰った友達とこの辺りを一緒に旅したもんだなあと思いにふけりました。

二軒目の Robert Renzoni Winery はレストランが素晴らしいとのことで、食事を楽しむ人たちであふれていて、女優さんの雰囲気的女性があちこちに。私は自分の服装合ってたかしらと自分のパンツを見直してしまいました。そして 3 軒目の Wilson Creek Winery で十分にワインテイスティングをお楽しみなさった方々は、帰りのバスに行くにも千鳥足で……。

再び Pechanga Casino で主人と合流したら、カジノゲーム機の遊び方がわからないと言ってたのに、単にメンバー登録して遊んでみたら、ラッキーなことに 38 ドルも稼いだってさ～！

シニアのお楽しみにしちゃー、申し分なかったね。というふうにシニア夫婦の楽しいバスツアーの一日でした。第一回を企画して下さい藤田きみ子さんに感謝！



寄稿 その船長、命の恩人！

太田 勉 California

真冬の厳しい玄界灘を一艘の小型漁船が数組の日本人引き揚げ家族らを乗せて釜山から下関に向かって進んでいた。その家族集団の一つが私の家族だ。この実話はその数時間前から始まる。

臨月を間近に控えた私の母は不安な面持ちで寒さに震えながら釜山港で家族と船出の順番待ちをしていた。終戦から間もない、殺伐とした緊張の高まる波止場には多くの引き揚げ家族らが手に手に持ち込める限りの荷物を持って何時間も並んでいる。政府派遣の大型引き揚げ船は元軍人、軍属関係の家族らが優先的に当てがわれ、うちの家族のような一般残留日本人市民らは自腹で現地の漁船を雇って引き揚げたという。

やっと私の家族（私は母のお腹の中）の順番が回って来て、他の四家族と一緒に乗り込んだ。焼玉エンジンの小さなポンポン漁船。これで日本まで辿りつけるのか、皆がそう心配していたに違いない。

出港して1時間ほどたった頃、前方の鉛色の波間にぷかりぷかりと数体の死体が浮かんでいるのが見えた。それは1時間前まで一緒並んで一つ先の漁船で出発した家族らのものだった。緊張が全員に走った。この時、朝鮮人船長が口を開いた。強張った表情で「この先にはきっと海賊が待ち受けていて、引き揚げる日本人を襲撃しているに違いない」と言い、続いて「私も間違いなくやられる。私も死にたくはない。海賊が欲しいのは我々の命ではなく、皆さんが持っている金品です。そこで皆さんに提案があります。うまくいくかどうかは分からないが、皆さんが持っている金品をすべて一か所に出し集めて下さい。私が海賊と交渉して彼らにこれらの金品を差し出し、無事に通してくれるよう頼んでみる」と言い終わった。家族らはそれに従う以外に回避する方策を話し合うなどの余裕もなく、それぞれが手荷物から金品を出し合った。

やがて小一時間ほど進むと、船長の言った通り、銃を構えた海賊が我々の船に停船を命じた。うちの船長が大きくまとめられた包みを差し出し、朝鮮語で海賊らとしばらく話し合った。船内の日本人家族らにとってこの時間はどれほど長く、また、苦しい、そして神仏に願い続けた時間であったに違いないと想像される。やっと船長が戻ってきて、「タヘンイダ（よかった）、助かった！。海賊は我々の船を通してくれるよ」。

この瞬間で胎児であった私は、これまで80年の人生で13回も危険から助けられているが、これが第1回目の「お蔭」を受けたことになる。時計まで差し出しているのに、どれだけ時間が経ったかも分からぬうちに、とにかく下関港に到着。五つの家族らは互いに手を取り合って無事の帰国を喜び合った。

以上は後に母から聞かされた、太田家存続に関わる戦後の引き揚げ時の話である。あの時の、その船長の機転と勇気がなければ今の私は存在していない。私にとってもその船長は命の恩人。また、その船長も我々のお蔭で助かったのかもしれない。



乗船を待つ日本人引揚げ家族ら（Google Image より）

皆の広場 （お便りコーナー）

川 柳

Yoshie Hiroto de Aguilar Cypress, California

娘（こ）の淹れる 朝茶の旨し 卒寿かな



手放せぬ 天眼鏡と 孫の手も



「かわら版」 23 号のお知らせ

1. 発行予定日： 2025 年 12 月 15 日

2. 特集・寄稿：

■ この世に産声を上げ、今日まで生きてきた皆様のストーリー

楽しかった思い出、悲しい思い出、最愛の妻・夫との別れ

異文化の違い： 長年米国へ住まわれているシニア、日本と米国の文化、伝統或いは商習慣の違いに関してあなたが感じた事、感謝、不満、若者に告げたい事

■ あの町、この町、あなたの街 / クリスマス・お正月の旅日記

■ みんなの広場（お便りコーナー）

3. 原稿締切： 2025 年 10 月 20 日

4. 原稿を送付する場合：「氏名」「City/State」「電話番号」「Email アドレス」は必須
コンピューターを使えない方は手書きでの寄稿也大歓迎です。原稿用紙を送りますよ・・・

「かわら版」の継続とお願い・ドネーション

会員の皆様にはご承知の通り「かわら版」は全てが私たちの無償報酬にて運営されており、その財源は皆様からの「ドネーション」にて賄っております。この会は連邦政府からの NPO 非営利団体として認可(501.C.3 FEIN-2811563)を受けております。

秋の集いの講演会 — “高齢者を狙った詐欺”

開催日： 2025 年 9 月 6 日、土曜日、午前 11:30—午後 2 時

場 所： New Gardena Hotel, 1611 W. Redondo Beach Blvd., Gardena, CA 90247

近頃、あらゆる手段で高齢者を狙った詐欺が横行しています。自分自身だけでなく、家族や友人を詐欺から守るための防衛策をまなびましょう。

会費： \$25.00、席に制限あり。空席があるか事前に確認して下さい。

連絡先 katsm2390@gmail.com 宮里かつまで。

***** Funding for the project is partially supported by KEIRO *****

編集後記

今年は戦後 80 周年を迎えた。終戦直前に生まれた筆者には感慨無量である。両親がいかに苦労して我々を育ててくれたか言葉には言い尽くせない、食料難の環境の基に [生きる] 望みだけで日々を送った時期、思い起こすだけで体が痠んでくる。NHK の朝ドラでもその当時のシーンが映し出されたが本当の姿にはほど遠いと思えた。その後、日本経済は急激に発展し世界に類を見ない復興を成し遂げ、国民の生活も豊かになった。平成時代、令和時代を経て平和一色に恰も見えるが、果たして国民、いや、世界中の人々は平和なのだろうか、と、自問自答し、考えさせられる80周年を迎えている。 勝



チャランポランの会は、シニアの方々が生きがいを持って人生を楽しみ、健康で長生きすることを目的としています。
シニアだからこそ言える苦言、提言、さらに社会奉仕まで 参加される皆様と一緒に考え、創り上げていく会です。
風に揺らいているチャランポランな葉っぱであっても、その木の根っこは長い人生を歩んできた分、どっしりと深く
広がっているシニアの木。その「シニアのシニアによるシニアのための会報誌」がこの「かわら版」です。
今後のチャランポランの会と「かわら版」をどうぞよろしくお願い申し上げます。

www.charanporanusa.org



表カバー・裏カバーともに7月10日の満月の夜に咲き開いた月下美人

撮影：会員 宮里カツ katsm2390@gmail.com